

企業名： アイカ工業

レポート名： アイカレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

アイカレポート 2021 には、「アイカ 10 年ビジョンと中期経営計画」の見出しにおいて、会社が目指す姿が明確に示されている。2017 年にアイカ 10 年ビジョンという、2027 年までに会社があるべき姿が策定された。このビジョンは、第一次中期計画、第二次中期計画、第三次中期計画といったように三段階に分けられており、2021 年からは第二次中期計画に入っている。第一次中期計画の結果としては、積極的な M&A の活用、工場新設、新規市場開拓などにより 2019 年 3 月期までは飛躍的な成長を遂げたが、最終年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、海外売上比率のみ目標をクリアし、そのほかの目標は未達に終わったことが示されている。

化成品事業と建装建材事業それぞれの事業ごとにあるべき姿が定められている。化成品事業では、人々の暮らしや社会インフラを支える建設分野向け樹脂で「アジアトップメーカー」を目指しつつ、自動車・日用品、電子材料など非建設分野で成長していくことが示されている。また建装建材事業では外壁を含めた壁市場全体に事業領域を拡大し、住宅・非住宅の生活空間に快適・安全を提供できる「空間デザインメーカー」として成長を続けていくことが示されている。

この目標を実現するうえで、「グループ連携・事業基盤の強化」、「人材育成」、「ステークホルダーへの責任」を基盤に進めていくということが視覚的にあらわされていた。

さらに中期経営計画の基本方針は、①成長事業の創出・拡大、②利益基盤の強化、③経営基盤の強化、を掲げており、これらの方策の確実な遂行により変化に強い企業体質を整え、持続的な成長を図る。これらの基本方針は 7 つのマテリアリティ（重要課題）によって支えていくこともわかりやすく示されている。それぞれの基本方針の詳しい説明も記載されているため深い理解が可能であった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

「価値創造を支えるアイカの強み」の見出しにおいて、アイカの強みは、化学とデザインの力を活かした豊富な商品群と、それを支える強固な顧客基盤、海外基盤、ブランド価値、優れた人的資本、高い品質と環境保全に裏打ちされた社会からの信頼、健全な財務基盤などにあると述べられている。それぞれに関する説明も記載されている。例えば「顧客基盤」では、アイカ商品を熟知した販売代理店網「アイカ会」が国内外に顧客基盤を構築していることが、「ブランド価値」ではメラニン化粧板国内シェア一位を獲得していることが示されている。

またそのほかの項では、アイカが創業当初から培ってきた科学技術、開発力、国内外の販売網と顧客基盤を基軸に価値創造をしていくというアイカの強みが示されている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

アイカレポートの p14 に、価値創造の源泉（ビジネスモデル）とある。ここには科学とデザインのコア技術、さらに販売網・顧客基盤、品質・環境保全、課題解決、豊富な商品群、ブランド価値、海外展開を通じて持続可能な社会の実現を目指していることが読み取れる。アイカ工業は、M&A を通じて競争優位性を確保し続けるのではないかと考えられる。

またリスクマネジメントについては各種リスクに対して対応する部門を決め、それぞれが検証し、必要に応じて規程・ガイドラインを制定していると述べられていることから、リスクの処理も素早く行えるのではないかと考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「人材」の見出しでは、アイカ工業は人材に力を入れていることが読み取れる。中でも研修制度に関しては、①入社前のフォローから、着実にキャリアを重ねるための階層別研修、自己啓発支援など、人材育成のためのさまざまな制度が用意されている。②新入社員向けには、入社から3年かけて自ら考えて行動する「自立型人材」を育てる研修プログラムを導入されている。③OJT 制度やメンター制度も組み合わせ、新入社員が配属された部門と人事部が連携して育成に取り組んでいる。④四グローバル人材の育成にも注力しており、新入社員研修や2年次・3年次研修に語学研修を取り入れ、テレビ会議システムを使った海外グループ会社とのミーティング体験も行っている。⑤海外トレーニー制度を設置し、海外グループ会社への派遣を行うなど、海外での就業機会も提供している。⑥六通信教育制度や公的資格取得制度を設け、費用や奨励金を支給することで従業員が自ら学ぶ姿勢を支援している。

以上のようにアイカ工業では、社員が自立して成長するための支援が十分になされるため、人的資本の価値向上が期待できる。

また、ワークライフバランスに理解があることや、社員のメンタルヘルスにまで気を配っていることが読み取れる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

特に改善すべき点は見当たらなかったが、読み始めた時点では述べられていることが若干抽象的で、理解しにくい気がした。だが読み進めていくうちに、具体的な内容にまで言及されていたので問題ではないと考える。